

第14章-2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国

<ヴェルサイユ体制>

1919. 1/18 パリ講和会議 (於 ヴェルサイユ宮殿)

ドイツ帝国成立の日

原則・・・ウィルソンの 十四カ条 (1918.1)

- ①. 講和の公開、秘密外交廃止 ②. 公海の自由 ③. 関税障壁除去、平等な通商関係
- ④. 軍備縮小 ⑤. 植民地の公正な処置 ⑥. ロシア政体の自由選択、干渉戦争撤退
- ⑦. ベルギーの主権回復 ⑧. アルザス・ロレーヌをフランスに返還
- ⑨. イタリア国境の再調整 ⑩. オーストリア帝国内の民族自治 ⑪. バルカン諸国の独立保障
- ⑫. トルコ支配下の民族自治 ⑬. ポーランド独立 ⑭. 国際連盟設立

英ロイド・ジョージ、仏クレマンソー・・・ドイツ抑圧、勢力範囲拡大の要求貫徹

敗戦国は会議参加不許可、対ソ干渉戦争続行、植民地・従属地域の利益は考慮せず

▶ 1919. 6/28 ヴェルサイユ条約・・・対 ドイツ

サラエヴォ事件の日

第1編 = 国際連盟 規約

ドイツは一切の海外植民地失う (山東省権益は日本が継承→中華民国は調印せず)

賠償金 支払い・・・金額は当初未定 (→'21 決定 1320 億金マルク→賠償金問題)

軍備制限・・・陸軍 10 万、潜水艦・空軍禁止

ラインラント の非武装・・・ライン右岸 50km 以内軍備禁止

ライン左岸は英・仏・米・ベルギーによる保障占領

ザール 地方・・・国際連盟下に自治。15年後に人民投票で帰属決定

ダンツィヒ・・・国際連盟管理下の自由市。

メーメル地方・・・国際管理、実際はフランスの委任統治→リトアニアが侵攻・併合

ポーランドにバルト海の出口 (ポーランド回廊) を割譲

上シュレジエン、東プロイセン、シュレスヴィヒなどは住民投票で帰属決定

(ドイツ領にとどまる地域も多い。シュレジエンの工業地帯などはポーランド領に)

アルザス・ロレーヌをフランスへ割譲

オーストリアとの合邦 (Anschluß) 禁止、ブレスト・リトフスク条約無効 etc.

▶ 1919.9 サン・ジェルマン条約・・・対 オーストリア

ハプスブルク帝国解体、面積・人口 1/4、ドイツ人のみの小国に

ティロル・トリエステ (=未回収のイタリア) をイタリアに割譲 etc.

▶ 1919.11 ヌイイ条約・・・対 ブルガリア

ユーゴ、ギリシア、ルーマニアに領土割譲

▶ 1920.6 トリアノン条約・・・対 ハンガリー

スロヴァキアをチェコに、トランシルヴェニアをルーマニアに

クロアチア・ボスニアをユーゴに割譲。 面積 1/3、人口 2/5 に

▶ 1920.8 セーブル条約・・・対 オスマン・トルコ

ギリシアにイズミル地方・東トラキア (イスタンブールの西) 割譲

東アナトリアでは、北部にアルメニア人国家、南部にクルド人自治区

イラク・パレスティナは英、シリアは仏の委任統治領 (←サイクス・ピコ協定)

↔ トルコ革命、ギリシア・トルコ戦争、ローザンヌ条約 (後述)

< 国際連盟 League of Nations >

1920.1 ヴェルサイユ条約第1編＝国際連盟規約発効により発足

史上初の常設国際平和機関、本部 ジュネーヴ

提携機関……国際労働機関 (ILO)、国際司法裁判所 (ハーグ、1901)

- ・ 常任理事国…… イギリス、フランス、イタリア、日本 (新渡戸稲造)
- ・ 非加盟国…… 提唱国 アメリカ ……1920 ウィルソン落選(病気のため候補者指名されず)
敗戦国 ドイツ ……1926 加盟、常任理事国
社会主義国 ソ連 ……1934 加盟、常任理事国 (←'33 日独脱退)
- ・ 委任統治 ……ドイツ・トルコから没収した地域を、英仏日などに統治させる
- ・ 戦争防止のための手段……経済制裁のみ

< ヴェルサイユ体制とその矛盾 >

※2大原則…… 民族自決、国際協調

……しかし、各国の不满からしばらく紛争続く (その最後が「ルール出兵」)

▶ ポーランド・ソ連戦争 (1920-21)

ヴェルサイユ条約での東方国境 (カーゾン線) に不満

革命後まもないソ連と戦い、ベラルーシ・ウクライナに広大な領土獲得

▶ フィウメ 市 問題……イタリア・ユーゴスラヴィア間 (現クロアチアのリエカ)

トリエステ獲得したイタリアが、そのさらに東の同市も併合要求

1919.9 ユーゴ領とされた同市を過激派 (詩人ダヌンツィオら) が武力占領

1920 同市、国際連盟承認のもと自由市になる

1924 ムッソリーニがユーゴと交渉し同市併合

▶ ギリシア・トルコ戦争 (1919-22)

1920 セーヴル条約……ギリシアへ東トラキア、イズミル 地方割譲

この調印に先んじて、1919年、ギリシアがエーゲ海沿岸占領

↔ ムスタファ・ケマル率いるトルコ大国民会議と戦闘

1922 トルコ革命、トルコ共和国建国。ギリシア撃退。

1923 ローザンヌ条約 ……トルコ共和国と旧連合国とで締結

イズミル、東トラキアを回復。

アルメニア人国家、クルド人自治区は取り消し

・ 植民地・従属地域の「民族自決」は認められず

※山東省権益について

1915 二十一カ条要求……日本、満州・山東省の権益を中国に承認させる

1917 石井・ランシング 協定……満州はOK、山東省は×?

特命全権・石井菊次郎と米國務長官ランシングとの間で締結

1919 ヴェルサイユ条約……山東省権益は日本

→ 中華民国 (連合国の一員だった) は調印せず ← 五四運動

1922 九カ国条約 (ワシントン会議)

……石井ランシング協定失効。山東省は中国へ返還

<20年代の協調外交>

▶ 1921.11 ~ 22.2 ワシントン会議

アメリカ ハーディング 大統領の提唱 (USA は連盟の外から国際政治主導)
アジア・太平洋地域における 20 年代を規定 (→ワシントン体制)

- 21.12 四カ国条約 …… アメリカ、イギリス、フランス、日本
太平洋の現状維持、日英同盟 の廃止
- 22.2 九カ国条約 …… 上記 4 国 + 伊、蘭、ベルギー、ポルトガル、中国
中国の独立・主権尊重。
石井ランシング協定失効 → 山東省は中国に返還。
- 22.2 ワシントン海軍軍縮条約
主力艦 の保有制限 …… **米英 : 日本 : 仏伊 = 5 : 3 : 1.67**

▶ 1925.12 ロカルノ条約 …… 於スイス、5 条約・2 協定の総称

英・仏・独・伊・ベルギー・ポーランド・チェコスロヴァキア

ライン保障条約 …… ラインラント 非武装現状維持

ヨーロッパの集団安全保障、ドイツの国際連盟加盟承認 (→ 26 加盟)

※ルール占領後の危機を收拾 …… 独・仏・英の外相は 26 年ノーベル平和賞

独 : シュトレゼマン、仏 : ブリアン

英 : オースティン・チェンバレン (ジョゼフの子、ネヴィルの兄)

▶ 1928.8 パリ不戦条約 …… ケロッグ・ブリアン 協定

米国务長官と仏外相の協定から 15 国 (のち 63 国に拡大) の条約に
紛争解決手段としての戦争否定 (自衛戦争は否定せず)
制裁規定なし

▶ 1930 ロンドン海軍軍縮条約 …… 英マクドナルド首相の提唱

補助艦 の保有制限 …… **米英 : 日本 = 10 : 7**

仏・伊 (ムッソリニ) は途中で脱会

日本・幣原喜重郎外相の協調外交 → “統帥権干犯” 問題 → 浜口雄幸首相狙撃

《アメリカ》 …… “黄金の20年代”

世界の金融支配 …… ロンドン・ロンバート街から NY ウォール街に中心移動

1923 年には世界の金の半分がアメリカに偏在

共和党から 3 代連続大統領・大資本優遇の高関税政策 → 大恐慌の原因

ハーディング (21-23 病死、「正常への復帰」)

クーリッジ (23-29、「アメリカのビジネスはビジネスである」)

フーヴァー (29-33、「永遠の繁栄」 ↔ 大恐慌勃発)

経済的優位から孤立外交 (モンロー主義) → 復帰、国際連盟非加盟

民主化 …… 1920 憲法改正第 19 条 = 女性参政権

労働運動は低迷 …… 好景気で賃金高い

移民制限 …… 白人中心のナショナリズム、海外からの安い労働力流入阻止

1924 移民法 (年間 15 万人限定、排日条項あり)

《イギリス》

- ▶ 民主化 1918 第4次選挙法改正…21歳以上男子、30歳以上女子による普通選挙
1928 第5次選挙法改正…21歳以上男女平等普通選挙
- ▶ 大戦の影響深刻・不況 → 労働党 躍進
1922 議会第2党に
1924 第1次 マクドナルド 内閣 (自由党と連立、1~8月の短命、ソ連を承認)
1929 議会第1党に → 第2次マクドナルド内閣 (~31)
- ▶ 各自治領…WWI参加で独立性強め、講和会議・国際連盟にも本国とは別に参加
1931 ウェストミンスター憲章
1926、30年 英帝国会議の決議を成文化
本国と自治領は対等 (事実上の独立) → イギリス連邦 形成
カナダ、ニューファンドランド、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ連邦、アイルランド
- ▶ アイルランド問題 …WWI前にアイルランド自治法成立するも施行延期
1922 アイルランド自由国 成立 (イギリス連邦内自治領として)
北部アイルランド (アルスター地方) はイギリス残留
1937 エール共和国 独立宣言 (英連邦脱退)
→ 第2次大戦後承認 → アイルランド共和国に

《フランス》

- ▶ 国民感情 帝政期の債務放棄…反ソヴィエト → 対ソ干渉戦争に熱心
大戦の被害甚大…反ドイツ
1922-24 ポワンカレ右派内閣、ルール出兵
しかし、これらの強硬策はいずれも失敗、保守政権支持低下
- ▶ 1924-25 左派連合政権…急進社会党・社会党の連立、首相エリオ (急進社会党)
外相 ブリアン の協調外交 (~32、26、29と首相兼任、急進社会党)
24 ソ連承認、25 ロカルノ条約、28 パリ不戦条約

《ドイツ》

- ▶ 1918.11 ドイツ革命 …共和政、社会民主党政権 (党首 エーベルト)
↔ 各地でレーテ (労働評議) が共産革命おこす
- 1919.1 スバルタクス団 (= SPD 最左派、ドイツ共産党の前身) の蜂起 (於ベルリン)
ローザ・ルクセンブルク、カール・リープクネヒト ら
→ これらの共産党革命は全て、軍と結んだ社会民主党政権が鎮圧
- .6 ヴェルサイユ条約調印
- .8 ヴァイマル憲法 (ドイツ国憲法) 制定、初代大統領エーベルト (~25)
労働基本権などの社会権を初めて規定した民主的憲法
ただし「大統領非常大権」あり。議会解散・首相任免権。
20歳以上男女普通選挙権、帝国議会選挙は拘束名簿式比例代表制 (6万票で1議席)
通称: ヴァイマル共和国 (1919-33、Weimarer Republik)

※正式国名: Deutsches Reich…ドイツ帝国時代と同じ (Reich = 帝国)

社会民主党は Republik を提案したが否決。これ以後「帝国」には Kaiserreich という用法。

▶ ヴェルサイユ条約への不満から反共和政運動

- 1920.3 カップー揆……国家人民党のカップが軍部とクーデタ、ベルリン占領。市民はゼネストで対抗しクーデタ失敗
- 1923.11 ミュンヘン一揆……ナチスの ヒトラー が市政奪取を図るが失敗、投獄
- 1925 第2代大統領 ヒンデンブルク 当選（～34死、32年4月再選ではヒトラーを破る）

▶ 賠償金問題

- 1919.6 ヴェルサイユ条約……ドイツの賠償金支払い義務決定（金額は未定）
米「賠償金は損害のみ」 vs 英仏「連合国の戦費も含める」→「軍人恩給費を含む」で決着。
英経済学者ケインズは講和会議で賠償案策定に関わっていたが、強硬策に反対して帰国
- 1921.5 ロンドン会議……総額1320億金マルクと決定
金マルク = 1914年以前の金本位制（金と兌換）のマルク
WWIで金兌換停止後の「紙幣マルク」がその後「大インフレ」をおこす
戦前1913年のドイツ国民総所得の2.5倍！ しばらく猶予を請う
↓
- 1923年1月 フランス、ベルギーとともに ルール占領
ドイツ最大の工業地帯を保障占領
⇕
ドイツ……「消極的抵抗、不服従運動」＝ストライキ
同地方の労働者へは政府が賃金を支給
⇒ **空前絶後の大インフレーション** マルク紙幣価値が1兆分の1に
11月にはWWI直前と比較して物価が**1兆倍**に
- 8月 シュトレゼマン 首相就任（～11月）、兼外相（～1929年死まで）
人民党党首……社会民主党・民主党などとの大連立内閣
- 9月 ルールでの抵抗中止。 条約義務を可能な限り実行し、誠意をもって協調外交へ
- 11月 レンテンマルク 紙幣発行
レンテンバンク（地代償還銀行）設立。ドイツ全土の地代を担保にした新紙幣。
従来のライヒスバンクのマルク紙幣1兆マルクと、1レンテンマルクを交換する。
→インフレは奇跡的に急速に収束
- 1924. 8 ドーズ案……賠償委員会委員長ドーズ（米）による新しい賠償方式
アメリカ資本の導入でドイツ経済を復興させ賠償可能に
ドイツからの賠償金で、英・仏はアメリカに戦債支払い
問題点……賠償残金総額は未定。経済復興するもドイツの対外債務は累積。
- 1929. 6 ヤング案……賠償委員会委員長ヤング（米、ドーズの下で副委員長、GE会長）
賠償残金358億金マルク。59年の分割払い。→この直後、大恐慌始まる
- 1931. 6 フーヴァー・モラトリアム……独の賠償金・英仏の対米戦債の支払を1年間猶予
- 1932. 6 ローザンヌ賠償協定……賠償残金30億金マルク。英仏の対米戦債は免除
→ヤング案頃からドイツ国民に不満、ナチス躍進。この年7月総選挙でついに第1党になる
- 1933. 1 ヒトラー政権成立……賠償義務拒否

《イタリア》

WWI 後、失業者増大、共産主義勢力伸長

1920 社会党左派（のちの共産党）の指導下、北イタリアで労働者による工場管理

社会主義政権成立前夜か、という状況だったが、社会党は経済闘争限定の態度

→ 気勢が沈滞し国民の社会党への信頼は失われ、運動は失敗に終わる。

⇔ 地主、資本家、軍部の反撃開始

◆ ムッソリーニ (1883-1945)

師範学校卒。教師になるが退職しスイスへ。独語・仏語を習得し亡命中のレーニンからマルクス主義を学ぶ。
イタリア社会党の指導的立場に。WWI では反戦派から参戦派に転向し党から除名。自ら最前線配属を希望。

1919.3 ファシスタ党 結成（ミラノ、イタリア戦闘者ファッシ、Fasci Italiani di combattimento）

その武闘組織「黒シャツ隊」（ガリバルディの赤シャツ隊にならう）

社会主義の良い点を取り入れ、社会問題の解決を「階級間の融和」に求める。

一方、対外的には民族主義・国家主義的傾向が最初からあった。

1921 国家ファシスタ党（Partito Nazionale Fascista、PNF）に改称

1922.10 ローマ進軍

ローマに黒シャツ隊入城。ムッソリーニは国王から組閣命令を受ける。

当初は一党独裁ではなく、中道右派の自由党・人民党、中道左派の社会民主党などの連立政権。

1925.12 ムッソリーニ、国家統領に就任（通称 Duce、ドゥーチェ）

共産主義などの諸勢力を鎮圧し独裁体制確立。労働組合も解散。1929 年翼賛選挙で全議席独占。

※史上初のファシズム政権成立……「ファッショ」= 結束 → 全体主義

1924 フィウメ市併合。 1926 アルバニア保護国化。

1929.2 ラテラノ条約 ……ローマ教皇とイタリア王国の和解

ヴァティカン市国の独立。教会と国家の関係を規定。

《ソヴィエト連邦》

1924.1/21 レーニン死去 → ペトログラードを レニングラード と改称

.1/31 USSR 憲法（24 年憲法）制定

▶ 後継者争い

トロツキー ……世界革命論、永久革命論。ロシア 1 国だけでは社会主義は永続できない。

スターリン ……一国社会主義論。ロシアは社会主義継続に有利な条件がある。

1922 年から共産党書記長。レーニン死後、書記長職に権限を集中させる。

1925 党大会でトロツキー失脚、スターリン勝利。党内粛清し個人独裁へ。

1928 ~ 第 1 次 五カ年計画 ……社会主義計画経済政策

（= ネット廃止により、クラーク、ネットマンなどを抹殺。）

農業の集団化・集団農場（コルホーズ）、国営農場（ソフホーズ）

重工業強化。（33-第 2 次で軽工業強化、38-第 3 次で軍需産業強化しドイツ警戒）

1936 年 スターリン憲法 発布……普通選挙・労働権・信教の自由など内容は民主的

しかし制定者自らこれを守らず → 大粛清

第14章-3 20年代アジア・アフリカの民族運動

《トルコ》

WWI直後、オスマン帝国はアナトリアのトルコ人居住地域も連合軍の占領で細切れに寸断されつつあった。

◎ ムスタファ・ケマル (1881-1938)

- 1920 トルコ大国民議会 結成、アンカラに政府樹立。
1919-22 ギリシア・トルコ 戦争
セーヴル条約でギリシア領とされた イズミル 地方奪回
1922.11 トルコ革命 ……スルタン制廃止、オスマン朝滅亡。(24 カリフ制も廃止)
1923.7 ローザンヌ 条約 締結
新たな国境。治外法権撤廃。関税自主権回復。
1923.10 トルコ共和国樹立……首都 アンカラ
初代大統領に就任 (→ 34 アタテュルク の称号を議会から)
1924 共和国憲法発布
政教分離、太陽暦、ローマ字、女性参政権 etc.の近代化政策推進
→この政策は、イランやアフガニスタンでも模倣される。(⇒イスラム原理主義)

《エジプト》

- 戦後、ワフド 党の独立運動
1922 イギリスの保護権停止→エジプト王国成立 (～ 1952)。
しかしスエズ運河支配権などの特権はイギリスが保持。

《イラン》

- カジャール朝……WWIで中立。戦後、自主権回復。
1925 レザー・ハーン のクーデタ。国王 (シャー) に即位。
▶ パーレヴィ 朝 (～ 1979) ……近代化。しかし石油利権はイギリスが保持。
1935 国名をペルシア (他称) からイラン (自称) に変更

《アフガニスタン》

- 1919 第3次アフガン戦争……イギリスと戦い王国独立回復。近代化。

《アラビア半島》

- ◎ イブン・サウード ……ワッハーブ王国再興をめざし、WWIで英に協力。
1932 サウジアラビア 王国 建国
アラビア半島西岸ヒジャース王国のフサインを破り半島をほぼ統一
※ヒジャース王国(1916-25)……ハーシム家のフサインが、イギリスとフサイン・マクマホン協定を結び建国。
ハーシム家はムハンマドの女孀で正統カリフのアリーの子孫。
フサインの次男アブドゥラーはヨルダン国王、3男ファイサルはイラク国王となる。
↑「アラビアのロレンス」に登場

《中東》

- ▶ パレスティナ……イギリスの委任統治領
▶ イラク ……イギリスの委任統治領 → 1921 王国成立、1932 独立
▶ ヨルダン……イギリスの委任統治領 → 1923 王国独立、1946 独立
▶ シリア ……フランスの委任統治領 → WWIIで仏敗北、委任統治終了 1946 共和国独立
→ 1926 レバノン分離(キリスト教徒多い)→ 1943 レバノン共和国独立

《インド》

1917年 モンタギュー宣言……英、戦後の自治約束 →インドは WWI に協力



1919年 インド統治法……自治とはほど遠い内容

同時に ローラット法 ……民族運動弾圧、令状なしの逮捕、裁判なしの投獄

◎ ガンディ (1869-1948、国民会議派)

▶ 非暴力・不服従運動 (サティヤーグラハ、“真理の把握”の意味)

しかし 1922年、農民による警官殺害事件勃発で中止。ガンディ投獄(22-24)

◎ ネルー (1889-1964)

1929年 国民会議派 ラホール大会……完全独立 (プールナ・スワラージ) を決議

1930年 ガンディ指導、「塩の行進」組織

生活必需品である塩の専売政策を植民地支配の象徴ととらえ、法に反して自分たちで製塩



1935年 新インド統治法……連邦制、各州責任自治。中央政府はイギリスが掌握。

→ムスリムが多数を占める州では、選挙でムスリム政党が勝利

◎ ジンナー (1876-1948、全インド・ムスリム連盟)……パキスタン建設を目標に掲げる

《インドネシア》

1920年 インドネシア共産党結成……独立運動、しかし弾圧され壊滅

◎ スカルノ (1901-70)……1927年 インドネシア国民党結成

《ヴェトナム》

◎ ホー・チミン (1890-1969)

1925年 ヴェトナム青年革命同志会結成

1930年 ヴェトナム共産党 (インドシナ共産党) 結成

《モンゴル》

辛亥革命後、1915 中国から自治獲得 →ロシア革命の影響で社会主義波及→1919 中国は自治撤回

1920年 モンゴル人民革命党結成 (スヘ・バートル、チョイバルサンら)

1921年 臨時政府樹立

1924年 モンゴル人民共和国 建国……史上2番目の社会主義国家

《朝鮮》

1919年3月1日 三・一独立運動 ……WWI後の民族自決の潮流に呼応

知識人らによる「独立宣言」、京城市民による「独立万歳」のデモ



総督府による武力鎮圧……武断政治から「文化政治」とよばれる同化政策への転換
日本語・日本的慣習の強制

→ 1939 「創氏改名」(日本風の氏名を名乗らせる)

太平洋戦争期には、日本への強制連行・強制労働、徴兵制も

《中国 1920～30年代》

＜文学革命＞

- 1915 陳独秀、雑誌『新青年』発刊
1917 “文学革命” …… 胡適、同誌上で口語（白話）文学を提唱
魯迅 …… 『阿Q正伝』『狂人日記』
李大釗 …… 北京大学でマルクス主義研究、陳独秀も参加

＜日本の動向と中国＞

- 1919年5月4日 五・四運動 （←パリ講和会議で「二十一カ条」破棄要求無視）
北京大学学生デモ（「還我青島」）から広範な排日愛国運動へ
- 〃 .7 カラハン宣言…ソヴィエト政府外務人民委員代理カラハン
帝政ロシアの対中国利権を破棄、対等国交の意思を示す
- 〃 .10 孫文、中国国民党再組織 （←1914年、東京で中華革命党組織）
- 1921年.4 孫文、国民党による広東軍政府樹立、ソ連から顧問招聘
- .7 中国共産党結成（陳独秀委員長、ソ連・コミンテルンの指導下）
- 1924年.1 第1次国共合作（第1回国民党大会で党組織改組）
『連ソ・容共・扶助工農』
中国共産党員がその党籍のまま国民党に入党することを認める。

※黄埔軍官学校…国民革命軍創設のため設立。蒋介石校長（23年ソ連視察）
共産党からも周恩来（政治部副主任、のち主任）などが参加

- 1925年.3 孫文死去 「革命尚未成功」
- .5 五・三〇事件 ……上海民衆のデモに租界警察が発砲弾圧 →反帝国主義運動へ
（きっかけは日本人経営紡績工場での労働争議への工場側の発砲）
- .7 国民党、広東軍政府を改称し国民政府樹立（主席・汪兆銘）
- 1926年.7 北伐開始…国民革命軍総司令 蒋介石（1887-1975）
割拠する諸軍閥の討伐、中国統一めざす
- 1927年.3 上海・南京占領…この時、共産党指導下で労働者が上海を軍閥から解放
⇔ 資本家や列強の不安・動揺
- .4 上海クーデタ（四・一二クーデタ）…蒋介石による上からのクーデタ
国共合作破棄。南京に国民政府樹立、主席に就任。



- ◆共産党 ……主流派による都市工作は失敗
1927.8 南昌蜂起失敗 1927.11 広東省陸豊・海豊にソヴィエト政府樹立するも短命に終わる

- ◎ 毛沢東（1893-1976）……農村工作
1927.10 井崗山に拠点
1931.11 江西省 瑞金に 中華ソヴィエト共和国臨時政府樹立

- 1928年.4 北伐再開
 .5 **済南事件**……日本が中国統一を警戒し「山東出兵」。北伐軍と武力衝突。
 .6 北伐完了…… **張作霖**（奉天軍閥）を破る。
 ^{6/8} 北伐軍、北京入城。 ^{6/20} 北京を北平と改称
- ^{6/4} **張作霖爆殺事件**（満州某重大事件＝当時日本での呼称）
 田中義一内閣は従来通り張作霖を利用しての満州維持を考えていた。
 しかし関東軍は、北伐軍に敗れ奉天へ退却途中の張作霖を列車ごと爆殺。
 これを国民党の仕業に見せかけるが、張学良に真相を知られ失敗。
- .7 **張学良**（張作霖の子）は満州への不干渉を条件に蒋介石に服従

<満州事変から日中戦争へ（十五年戦争 1931-45）>

日本……1920年代の不況による国民の不満を背景に、軍部・右翼が勢力を増す。

→以下の流れの中で、1932年 五・一五事件、1936年 二・二六事件

- 1931年9月18日 **柳条湖事件** → **満州事変** 始まる（～1933.5）
 関東軍による満鉄線路爆破自演。張学良の仕業として軍事行動開始、満州制圧。
- 1932年.1.3 上海事変……日本人殺害事件を口実に海軍が戦闘
 .^{3/1} **満州国** 建国…… **愛新覚羅溥儀**（清・宣統帝）執政。（'34.3～皇帝）
 .10 国際連盟、**リットン**調査団の報告書公表
- 1933年.3 日本、**国際連盟脱退** ← 連盟総会、リットン報告書採択決議
 .5 塘沽（タンク）停戦協定……日中間で満州事変の停戦
 ↓ 事実上、長城以北の満州国承認。長城と北京・天津との間に緩衝地帯
- 1935年.12 冀東防共自治政府……この緩衝地帯に日本の傀儡政権樹立（～1938）

◆共産党……国民党の攻撃を受け、体制の立て直しを図る

1934年.10～1936年.10 **長征**……江西省瑞金から陝西省**延安**まで大移動
 この間に党内で毛沢東の指導権確立（'35.1 遵義会議）

1935年.8 **八・一宣言**……抗日統一戦線を国民党に呼びかけ
 ↑'35.7 コミンテルン第7回大会「人民戦線テーゼ」

◆国民党……蒋介石は共産党の提案拒否、内戦継続。これに不満の張学良を説得に西安へ。

- 1936年.^{12/12} **西安事件**……張学良が蒋介石を監禁
 そこへ共産党の**周恩来**が来て蒋と会談。^{12/25} 蔣、釈放。
 ※歴史的転換……蒋介石が抗日へ。しかし日本はこれを過小評価

- 1937年7月7日 **盧溝橋事件** → **日中戦争** 始まる（～1945）
 北京郊外での日中両軍軍事衝突から全面戦争へ。
- .9 第2次国共合作＝抗日民族統一戦線成立
 .12 日本、南京占領（この時、**南京虐殺事件**）

◆国民政府は、南京→武漢→**重慶**と拠点を移し、広い農村地帯を基盤に徹底抗戦

◆日本軍は「点と線（都市と交通網）」しか支配できず、戦争は泥沼化

1940年.3 南京に親日派の**汪兆銘**による傀儡政権樹立するも事態打開ならず